

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜山中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度は、基礎的・基本的事項(語彙、資料の分析力等)の定着を最優先課題とする。具体的方策として、課題選択型授業の導入により段々の進度に応じた学びを保障し、スタディログの活用で学習過程を可視化して、家庭学習との連動性を高める。また、単にICTを使う段階から、情報を効果的に検索しアプリを道具として使いこなす「学び方」そのものの指導を強化する。さらに、教科横断的な視点から指導の一貫性を高めるカリキュラム・マネジメントを推進し、地域連携による体験活動を年間計画に組み込むことで、生徒が知識・技能の有用性を実感し、学び意欲を自律的に維持できる環境を整える。
思考・判断・表現	主体的な学びを一層深化させるため、単発の発表活動に留まらず、学習目的を明確にした振り返りや相互評価の場を計画的に拡充する。特に課題である「表現力」の強化に向け、地域人材や施設を活用した実感を伴った体験活動を充実させ、思考の基盤となる語彙の拡充を図る。また、教職員の減少を見据え、SST等と連携した生徒のエージェンシー(主体性)を育む活動(地域貢献・協働企画等)を意図的に設定する。これにより、多様な他者と対話しながら自らの考えを論理的に構築・判断し、発信していく力の向上を目指す。また、AI等の新技術の特性やリスクを理解した活用能力の育成も進める。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 知識・技能の活用に課題が見られる。 <指導上の課題> 知識・技能の選択の場面設定に課題があると考えられる。	⇒ ・定期テストでの対策授業を実施する ・成果が分かりやすい小テストを実施する ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 考えをまとめて表現することに課題が見られる。 <指導上の課題> 授業ではそうした場面が設定されているので、今後の変容に期待したい。	⇒ ・発表を全体に公開する機会を増やす。 ・全教科で生徒の学習意欲が向上する工夫を、その教科領域の特性を生かして考える。 ・「学びのポイント」(じ・し・ゃ・く)に基づいた授業づくりを推進する。 ・SSSPを推進させ、自分の力で学習を進められるようにする。 ・ICTを活用し、自分の考えを発表する場を意図的に作る。

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	本年度は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、ICTを活用した授業改善を進めた。校内研修では「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)」に基づいた授業づくりや、体験学習を通じた知識・技能の習得の工夫について研修した。また、基礎学力の定着に向け、定期テスト対策授業や小テストの実施、朝読書時間の活用など、学習機会の確保に努めた。しかし、全国学力調査等では、国語の語彙力や数学のデータ分析(相対度数等)に依然として課題が見られる。ICTの効果的な活用指標は横ばいであり、知識・技能を単に習得するだけでなく、適切に選択・活用する場面設定のさらなる工夫が必要な状況である。
思考・判断・表現	B	研究主題である「体験学習や発表活動の充実」に基づき、総合的な学習の時間や各教科で、ICTを用いた発表場を意図的に設定した。その結果、ICTを自分の考えの集約・発表に使う生徒の割合は前年度から大きく向上した。数学的な思考に基づき表現力は身につくつつあるが、国語の要約や考えを伝える問題では、表現の基盤となる「語彙力」に課題がある。また、SSSP(スタディログ)の推進により自律的な学習を促しているが、学びの指標「主体的な学び」は横ばいであり、思考を深めるための情報の精査や、自己調整力を育成していく必要がある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、特に「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる」問題に課題がみられた。このことから、語彙力に大きく課題があることが考えられるため、一層の語彙力強化が求められる。数学の「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」問題において課題が見られた。ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める問題等において、さらに力をつける必要がある。表を分析するという問題にくり返り組ませたい。	
思考・判断・表現	国語では、自分の考えを伝える問題や、内容を要約する問題で、課題が見られた。数学では、数学的な表現を用いて説明する問題と、筋道を立てて証明する問題で課題が見られた。数学的な思考における表現力は身につくつつあるが、語彙における表現力をつけさせる必要がある。言葉の力については、生活環境や日常的な学習経験の影響を大きく受けるため、短期間での改善が難しい面があると考えられる。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	さいたま市学習状況調査の結果、本校では「知識・技能」の定着に大きな課題が見られた。計画的な学習の習慣化不足が基礎的事項の定着を妨げている現状が浮き彫りとなった。また、単なる知識・技能の習得に留まらず、全国学力調査の傾向と同様に「知識・技能を活用・選択する場面設定」に課題があり、資料を分析して必要な情報を読み取る技能の強化が急務となっている。	
思考・判断・表現	「思考・判断・表現」の観点においては、1学年の数学では説明の筋道やグラフ・表から情報を読みとく力が身に付いていることがわかった。しかし、全体的に自分の考えを論理的にまとめて要約・文章化する力や、数学的な根拠に基づいた説明・証明を行う力に課題がある。これは、事象や行為を表す「語彙力」の不足が思考の深まりや表現の幅を制限しているためと分析した。対策としてICTを活用した発表場面の意図的な設定により、表現に対する意識は向上しつつあるが、依然として自ら課題を設定し、情報を精査して判断・表現する「学びの自律化」に向けた支援が不可欠な状況である。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	年度当初、校内研修で研究主題「生徒たちの学習を充実させる体験学習や発表活動の充実」を確認し、12月の指導訪問も含めて、生徒が意欲的に知識・技能を学ぶ工夫を考える計画を確認した。7月に2回目の校内研修を実施して、夏休みに向けた課題を話し合った。	校内研修で生徒たちの学習を充実させる体験学習や発表活動を共有し、改善する。 ・評価活動の研修を行い見直しをする。
思考・判断・表現	B	全国学力では、知識・技能を活用する場面設定において課題が見られた。各学年とも総合的な学習や特別活動においてそれぞれの発表場面を設け、教科でも知識・技能を活用して発表する取組を実施しているため、それらの効果を期待したい。	発表を取り入れた授業の共有、改善、見直しをする。 ・8月に12月の授業者の先生による指導案検討を校内研修で実施した。 ・ICTの活用例を9月の校内研修で行う。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)